

6月3日
OPEN

フジ虎ノ門 こどもセンター



フジ虎ノ門こどもセンター「こども総合ケア」のしくみ

当センターは、フジ虎ノ門整形外科病院と御殿場市が、こどもを取り巻く医療・福祉・保育・教育など様々な機関と連携して“こどもを総合的にケア”する全国でも類を見ない、新しい施設です。フジ虎ノ門グループの充実した様々な部門を大いに活用し、御殿場市・小山町を中心に病気など様々な原因で学校に通えないこどもたち・難病に苦しむこどもたちが生き生きと安心して生きられる環境づくりを目指します。



フジ虎ノ門こどもセンターに関するお問い合わせ

『こども診療部』・『こども・家庭相談部』

TEL: 0550 (88) 0043 FAX: 0550 (88) 0044

『こども福祉』

TEL: 0550 (88) 0041 FAX: 0550 (88) 0044

御殿場・小山にこどもの楽園

「フジ虎ノ門こどもセンター」を創りたい

いま、地方の医師不足が深刻化しています。とくに深刻なのが小児科専門医の不足。さまざまな原因で学校に通えない不登校のこどもたちにも小児医療で解決しなければならない問題が多く、こどもに特有の小児性難病に悩むこどもたちも最新の医療を待ち望んでいます。そこで注目されているのが、6月3日にオープンする「フジ虎ノ門こどもセンター」。今回はそのねらいや仕組みについて、センター長の医師 横田俊平氏に伺いました。



PROFILE

フジ虎ノ門こどもセンター
センター長

医師 **横田 俊平**

横浜市立大学 医学部 卒業
横浜市立大学 名誉教授

日本小児科学会 認定指導医・専門医
日本リウマチ学会 認定指導医・専門医
日本感染症学会 認定指導医・専門医
日本アレルギー学会 専門医

医療福祉の過疎地域から脱出！

日ごろ住民の皆さんの健康な暮らしを支えているのは地域の医療機関です。本院がある御殿場市は、お隣の小山町と併せて人口が約10万人ですが、こどもたちの健康を預かる小児科専門医は開業医を含めて4～5名。診察で3～4時間待つことも多く、入院が必要なこどもや難しい病気のお子さんは、態勢の整った近隣や県外の医療機関に紹介せざるを得ないなど、医療環境はこれまで決して十分とはいえませんでした。

その地域に小児科医がいるかないかは、即こどもたちの健康に直結します。学校には校医さんがいますが、必ずしも小児科専門医とは限りません。病気のあるなしはわかって、最近よく聞く発達障がいのあるお子さんについてはどうでしょうか。

私たち小児科医はふだんからこどもの発達発育を見ながら診療を行っています。集団検診でも大勢のこどもたちの中から、みんなと様子が違う子、

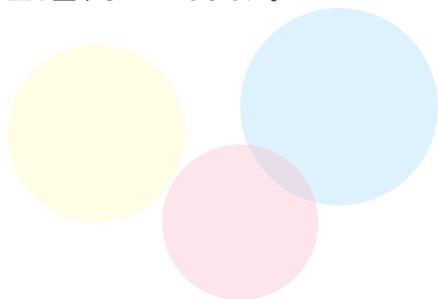
目に落ち着きのない子やほっぺの赤い子、呼吸の早い子などを瞬時に見分け、急な発熱・腹痛・下痢の症状から、発達障がいやイジメ、家庭内のトラブルなど、背景にある問題まで早期発見できるのが小児科医なのです。

教室に通えない子が1割にも？

私が小児科医師として本院に赴任した3年前、市内の公立中学校の先生から衝撃的な話を伺いました。何らかの理由や事情で学校に通えないこども、学校までは来られても保健室登校が続いているこどもが、併せて全体の1割に上っている。病気、家庭の事情、学校内の問題など学校に通えないことの根本の原因や背景がきちんと把握されておらず、一人ひとりに合った対応がなされていない。そしてそれはどこの中学校においても同じような状況だ… というのです。これでは日本が医療福祉の後進国だといわれても仕方ありません。

まずは学校に行けない理由をはっきりさせる必要があります。発達障がい児たちは登園・登校に支障をきたしている場合が少なくありません。また、線維筋痛症や子宮頸がんのワクチン副反応障害のように、病気そのものが正しく認知されておらず、「ただ怠けているのではないか」と誤認されがちな現実も子どもたちを苦しめています。こういう状態をそのまま放置していて良いはずがありません。小児科医療は、社会医療でもあるからです。

それらの現状を正しく認識し、我々小児科専門医を中心とした地域医療機関と、地域の医療・福祉行政を司る御殿場市とがタッグを組んで、次代を担う子どもたちのための新たな拠点としての「フジ虎ノ門子どもセンター」を令和元年6月3日から立ち上げることとしました。



フジ虎ノ門子どもセンター設立の三本柱

(1) 小児難病センター

小児リウマチ性疾患、線維筋痛症、ワクチン副反応障害など難病の中心的医療機関として診断、治療、ケアにあたります。小児リウマチ専門医、看護師、薬剤部門、諸検査部門による医療的対応のみならず、栄養部門による入院病児の栄養管理、リハビリテーション科による社会復帰に向けた取り組みを中心とするセンターです。当センターでは、御殿場市のみならず静岡県全域の小児リウマチ性疾患の対応に当たります。また、子宮頸がんワクチンなどワクチン

接種による健康被害者の診断・治療については、全国的にも対応する医療施設が少なく、他都道府県からの相談・医療にも対応します。

(2) 障がい児支援センター

小児科医、看護師、臨床心理士、薬剤部門、検査部門による発達障がい児の診断・治療に当たります。とくに発達障がい児のリハビリテーションには特殊なプログラムが必要で、言語聴覚士（ST）の言語聴覚の発達に関する治療、理学療法士（PT）、作業療法士（OT）による総合的なリハビリテーションをすすめていくこととなります。静岡県東部地方には障がい児支援に対応できる施設が少なく、他都市の障がい児の診断をすすめて対応プログラムを作成し、地域での日常的なリハビリテーションを実施することも期待されています（one stop service）。また、社会全体で障がい児と家族を支える観点から、障がい児のデイ・ケア・サービスおよびショート・ステイについてもすすめていきます。当センターでは医療・行政（福祉）・家族をつなぐ存在として、社会福祉士の活躍が期待されています。また、障がい児のご家族からの相談についても対応する所存です。



フジ虎ノ門子どもセンター外観

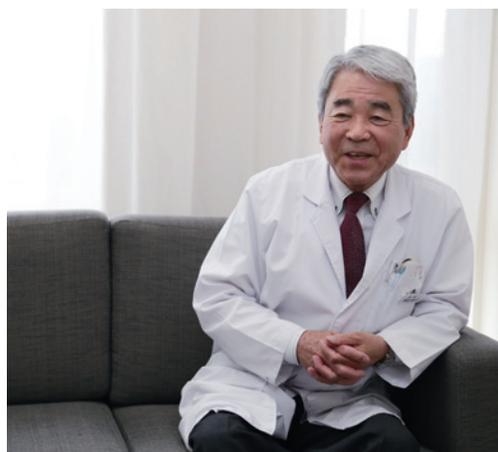
(3) 登園・登校障がい児 コンソーシアム※

発達障がい児、小児難病のこどもたちは、登園・登校に障がいをきたすことが少なくありません。また、御殿場市内にも様々な理由で登校できないこどもたちがいます。これは医療・福祉だけで解決できる問題ではなく、保育・教育だけでもできません。それぞれの領域に関わる人々が集まり、一人ひとりのこどもの問題点を抽出し、議論を重ねてこどもにとってもっとも良い解決方法を導き出す必要があります。このコンソーシアムでは、医療・福祉関係者、保育・教育関係者、社会福祉士、行政などがこどものためにいつでも議論できるように、当センターを常に開放して対応しようと考えています。

※コンソーシアム=共同事業体

フジ虎ノ門病院の総合力が バックに

6月3日に開所する「フジ虎ノ門こどもセンター」には最初からたいへん大きなアドバンテージがあります。それは、昭和57(1982)年設立以来、当地で長年にわたって実績を積み重ねてきたフジ虎ノ門整形外科病院の総合力です。例えば前段の(2)で触れたように、小児リウマチ性疾患や線維筋痛症など、小児難病の治療には理学療法や作業療法によるリハビリテーション治療が欠かせません。また、人とコミュニケーションをとることが苦手な発達障がい児の訓練にも、言語聴覚のリハビリがたいへん効果を上げることが知られています。その点、当院は整形外科病院として30有余年に及ぶ実績とともに、理学療法士や作業療法士、言語聴覚士等、常時70名のセラピスト集団を擁しています。彼ら、彼女らはみな若く、こどもの患者さんたち



に自分の弟や妹のように親身になって接してくれます。治療・訓練に必要な温水プールやアスレチックジムなどの施設設備も充実しています。100名の園児たちが毎日通ってくるこの保育園は、難病や障がいを持つこどもたちも自分がお兄ちゃんお姉ちゃんになれる場所ですし、一般病棟に入院している大人やお年寄りとも、日常的なふれあいが生まれ、小児難病や発達障がいを持つこどもたちにまたとない社会訓練の機会となっています。

この「フジ虎ノ門こどもセンター」が、小児難病や発達障がいに苦しむ子や、学校に通えないこどもたちを一人でも多く救う「こどもの楽園」に育てたい。と同時に、このセンターで社会医療としての小児科医療に触れ、その重要性とやりがいを理解して、自ら小児難病や発達障がいの専門医・セラピストを目指す若き医療者たちが集い学ぶ、真のこどもセンターとなるよう、私も共に頑張りたいと思います。

